

会議録

会議の名称	令和3年度 第1回清須市行政改革推進委員会
開催日時	令和3年7月28日（水）午前10時～午前11時50分
開催場所	清須市役所 南館3階 大会議室
議題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 令和3年度行政評価（令和2年度対象）に係る外部評価について</p> <p>(2) 令和3年度行政改革推進委員会のスケジュールについて</p> <p>4 閉会</p>
会議資料	<p>会議次第、委員名簿、配席図 （会議資料）</p> <p>資料1 清須市行政改革推進委員会設置条例</p> <p>資料2 令和3年度行政評価（令和2年度対象）に係る外部評価について</p> <p>資料3 令和3年度行政評価結果（令和2年度対象）外部評価対象分</p> <p>資料4 令和3年度行政改革推進委員会のスケジュール</p> <p>参考1 市民満足度調査における施策の満足度・重要度・主な回答理由 外部評価対象分</p>
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	野田委員、齊藤委員、角委員、綱島委員、永井委員、山田委員、高山委員、西川委員、上田委員
欠席委員	なし
出席者（市）	葛谷副市長、河口企画部長
事務局	<p>（企画部企画政策課）</p> <p>後藤次長兼課長、杉原課長補佐、炭竈係長、西田主任</p>
説明者	吉野学校教育課長、鈴木社会福祉課長、石黒企画部次長兼人事秘書課長、伊藤市民課長
会議録署名委員	角委員、綱島委員

1 開会

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

ただ今から、令和3年度第1回清須市行政改革推進委員会を開催いたします。皆様には大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。私は企画政策課長の後藤と申します。よろしくお願いいたします。はじめに、市を代表し、副市長の葛谷から一言ご挨拶申し上げます。

2 あいさつ

(葛谷副市長)

皆様、こんにちは。副市長の葛谷でございます。

令和3年度の第1回清須市行政改革推進委員会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。皆様方には、本委員会委員への就任をお願いしましたところ、快くお引き受けいただき、誠にありがとうございます。これから2年間どうぞよろしくお願いいたします。

さて、東京オリンピックが開幕して6日が経過し、コロナ禍ではあるものの日夜テレビ中継等が行われるなど私もテレビの前で喜怒哀楽を示しているところでございます。昨日までのメダル数は金が10個、銀が3個、銅が5個だったと記憶しておりますが、大会が1年延期したことに加え、競技環境が大きく変化したことにより選手達はモチベーションを維持することに大変苦勞したと思います。オリンピック期間中はしっかりとテレビの前で選手達を応援したいと思います。話を戻しまして、平成17年7月の清須市誕生から16年が経過し、これまで第1次、第2次、第3次の行政改革大綱を策定して、行政組織のスリム化や、公共施設の再編など、一定の成果を上げてこられたと考えております。

加えて、令和元年度末には「清須市第4次行政改革大綱」を策定し、令和2年度からスタートした「第2次総合計画 後期基本計画」と併せて、行財政改革の推進及び政策・施策の推進にスピード感をもって取り組んでいくことが重要であると考えております。

本日の委員会では、プランの中で定められております、行政評価の外部評価といたしまして、令和2年度に行った市の取り組みにおける行政評価の結果をお示しさせていただきました。

この行政評価の結果を活用することにより、今後の事業の見直し・改善につなげてまいりたいと考えておりますので、委員の皆様には、評価の妥当性や客観性を確保することを主眼といたしまして、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

補足させていただきますが、この行政改革というのは持続可能な行政運営に最も必

要なことであると考えております。職員のモチベーションや効率性をしっかりと考えた上で手法等を考えていく必要があるため、非常に難しい分野ではありますが、皆様ぜひ職員を応援するような気持ちでご意見を頂戴したいと思います。簡単ではございますが、開催にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 委員の紹介、会長の選任、会長あいさつ

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

ありがとうございました。

本日は委員改選後、はじめての委員会でございますので、会議を進行する委員会の会長がまだ選出されていません。会長の選出まで事務局の方で進行をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

なお、この会議は「清須市附属機関等の会議の公開に関する要綱」第3条の規定により、公開会議となっておりますのでよろしくお願いいたします。

また、皆様への委嘱状につきましては、本来お一人ずつお渡しすべきところではございますが、時間の都合上お手元に配布をさせていただいておりますのでご容赦願いたいと思っております。

それでは、お手元の名簿に従いまして、委員の皆様のご紹介をさせていただきたいと思っております。

はじめに、同志社大学政策学部教授の野田遊様でございます。野田様は、地方自治、行政学、公共政策がご専門でございます。

次に、中京大学経済学部准教授の齊藤由里恵様でございます。齊藤様は、財政学、地方財政論、公共経済学がご専門でございます。

次に、キリンビール株式会社名古屋工場総務広報担当部長の角耕太郎様でございます。次に、三菱重工サーマルシステムズ株式会社総務部長の綱島裕介様でございます。次に、清須市商工会理事の永井雅大様でございます。次に、税理士の山田康博様でございます。次に、司法書士の高山孝治様でございます。次に、出版やデザイン関係を手がけるラコット愛知で代表をされ、本市のPR記事等を数多く執筆されておられます西川亜紀様でございます。最後に、さまざまな市民団体などにおいてご活躍をされておられます上田恭子様でございます。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。副市長の葛谷でございます。次に企画部長の河口でございます。次に企画政策課長補佐の杉原でございます。同じく係長の炭竈でございます。同じく主任の西田でございます。

それでは、会長の選出に移らせていただきます。

お手元の資料1「清須市行政改革推進委員会設置条例」の第4条第1項をご覧ください。ここでは「委員会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める」となってお

ります。委員の互選で決めるということですので、こちらにつきまして、ご意見がありましたらお願いいたします。

(山田委員)

前回の会長でもある同志社大学の野田教授にお願いしてはどうでしょうか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

ただいま、山田委員から野田委員に会長をお願いしてはどうかとのご発言がありましたが、他の委員の皆様はいかがでしょう。

・・・「異議なし」の声・・・

ありがとうございます。それでは、野田委員に会長をお願いしたいと思います。野田委員は会長席へ移動をお願いします。また、その他の委員の方も事務局がご案内させていただきますので、一席ずつご移動をお願いします。

・・・移動完了後・・・

それではここで、野田会長から一言ご挨拶をいただきたいと思います。野田会長よろしくお願いいたします。

(野田会長)

野田でございます、どうぞよろしくお願いいたします。これまで会長として皆様からご意見をいただきながらやってきましたが、今回引き続き会長を務めるにあたり、改めてこの委員会をしっかりと進めさせていただきたいと思いますので、ぜひ活発な議論をお願いしたいと思います。この委員会の位置づけとしまして、市の担当課がそれぞれ評価した内容を、私たち外部の委員が客観的に内容を判断することが重要であると考えます。従いまして、事業に対する要望も多少はあるかと思いますが、市の担当課の評価内容について客観的にいかどうかのご意見をいただけるようお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

ありがとうございました。それではここからは野田会長に会議の進行をお願いしたいと思います。野田会長よろしくお願いいたします。

(野田会長)

それでは、ここから私の方で会議の取り回しをさせていただきますので、よろしく

お願いいたします。

まず、職務代理者の選任をさせていただきたいと思います。先ほどご覧になられた資料1「清須市行政改革推進委員会設置条例」の第4条第3項のところで「会長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代理する」ということになっておりますので、私の方から指名させていただきたいと考えております。

職務代理者は齊藤委員にお願いしたいと思いますが、委員の皆様よろしいでしょうか。

・・・「異議なし」の声・・・

ありがとうございます。それでは齊藤委員よろしくお願いいたします。

次に、本日の会議録の署名委員の2名を指名したいと思います。

本日の会議録は、角委員と綱島委員にお願いしたいと思います。また、次回以降は永井委員から名簿順にいきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

4 議事(1) 令和3年度行政評価（令和2年度対象）に係る外部評価について （野田会長）

それではこれより議事に入りたいと思います。

議題(1)「令和3年度行政評価（令和2年度対象）に係る外部評価について」及び議題(2)「令和3年度行政改革推進委員会のスケジュールについて」の2つになります。

まず、議題(1)について、事務局から内容の説明をお願いします。

（炭竈企画政策係長）

企画政策課の炭竈と申します。私からまず行政評価の内容について説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

座って失礼いたします。・・・・・・・・

資料2 令和3年度 行政評価（令和2年度対象）に係る外部評価について説明。

（野田会長）

ありがとうございました。

ただ今、事務局から外部評価の概要についてご説明をいただきました。

それではこの内容について、ご意見やご質問はございますか。

・・・「特になし」の声・・・

よろしいでしょうか。

施策の評価シートは、事務事業の進捗状況を踏まえながら、施策の達成度の状況に

ついて見ていきます。この関係は機械的に繋がっているわけではありませんが、施策に影響がある主要な事業の進捗状況と施策の達成度を勘案して担当課が評価しているものについて委員の皆様と議論をしてもらうことになります。

これら外部評価は、客観性を確保するためのものではあるのですが、全ての意見に対して対応をしていくことは困難かもしれません。しかし、事務局にはできるだけ意見を踏まえて検討してもらうということで、お願いしたいと思います。

それでは、外部評価に入っていきたいと思いますので、資料3について、1施策ずつ事務局から説明をお願いします。

(炭竈企画政策係長)

引き続き私から「資料3」のご説明をさせていただきます。・・・

資料3「令和3年度行政評価結果（令和2年度対象）外部評価対象分」の全体様式等について説明終了後「施策203 学校教育の充実」について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

そうしましたらどんな観点でも結構です。ご意見やご質問はいかがでしょうか。

山田委員、お願いします。

(山田委員)

山田でございます。

評価シート左側中段「○ 施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）」の上段■で、「・・・GIGAスクール構想の前倒しにより、1人1台タブレット端末の整備が進み・・・」と記載がありますが、詳しく確認したところ、もともと数年かけて小・中学生に対し1人1台タブレットを整備する予定であったものが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から前倒しで整備がされたと聞きました。しかし、右側下段「V 施策の評価と今後の方向性」の上から三段目■で「・・・今後は、家庭への持ち帰り学習などの校外活用について、セキュリティ面を含めて、調査・検討を進めていく必要がある。」と記載があります。整備されてから時間はあったはずなのに、なぜまだこれから検討を進めていくとなっているのでしょうか。

(野田会長)

山田委員の話は、もともと数年かけて整備する予定であったタブレットであるため、当然家庭への持ち帰り学習などの校外活用についてもある程度検討していたのではないかと。これから検討するのは遅いのではないかとという趣旨のことであると思いますが、その点について、何かご説明ありますでしょうか。

(吉野学校教育課長)

学校教育課の吉野でございます。よろしくお願いいたします。

もともとICTの推進につきましては、数年前から文部科学省より通知等があり承知はしていたものの、予算的な観点や学校の実情等から実現するのが困難でした。そんな中、新型コロナウイルス感染症の影響により急遽1人1台タブレットの整備が急速に進みましたが、そもそも当初に文部科学省から発出されていた通知では、まだ家庭への持ち帰りに重きを置いていなかったと認識しています。全国的に新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から学校が休業になるなどし、家庭での学習に学校でのタブレットを活用するという案が注目された結果だと思っております。

現在は、各学校において1人1台タブレットを活用して授業に取り組んでいるところではございますが、まだまだ教員のスキルが追いついていないのが現状であり、普段の授業で使いながらスキルアップを図っているところでございます。

そのような中で、セキュリティという観点から考えますと、タブレットに保存された個人情報等などをはじめ、こういった問題があるのかをしっかりと調査・検討していきたいと考えております。

(野田会長)

ありがとうございました。

もともと家庭への持ち帰りを想定していなかったところに、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、家庭での学習に学校タブレットを活用する案が注目されたため、今後しっかりと検討していくというご説明でした。

山田委員いかがでしょうか。

(山田委員)

担当課で検討することも大事ですが、まさしく、個人情報も含めたタブレットのセキュリティなどについても、しっかりと児童・生徒に教育することが大切であると思えます。

(野田会長)

他のご意見はどうでしょうか。

上田委員、お願いします。

(上田委員)

上田です。よろしくお願いいたします。

私は、高校2年生、中学校2年生、小学校6年生の子どもがいますが、実際にタブレットを活用しての授業が始まり、非常に楽しいと子ども達から話を聞いております。ただ、タブレットに慣れている子と慣れていない子の差が非常に大きく、例えば入

力するのに時間がかかる子は、答えが分かっているのに入力できず評価がされないとか、授業内容をタブレットに記入できない子は、復習したくてもできない状況になっていると聞きました。当面はプリント配布するなどの対応をすることで、放課後などに復習したい子のフォローをする必要があるのではないのでしょうか。

(野田会長)

ありがとうございました。

特に評価シート上の内容について何かご質問があるという訳ではないと思いますので、そういったご意見があるということで、担当課には承知しておいてもらいます。

他に何かご意見はありますか。

西川委員、お願いします。

(西川委員)

西川です。よろしく申し上げます。

少し前に授業参観があり、子ども達がタブレットで授業を受けている姿を見て、時代が変わったんだなと思いました。まずは1人1台タブレットの整備に感謝を伝えたいと思います。また、先ほど家庭への持ち帰りについてご意見がありましたが、親としては、タブレットの破損や、不正なアプリ等を使用して、本来は利用できないゲームで遊んでいるようなことが起きた場合、はたしてその行為に気づくことができるかとても心配です。ぜひしっかりと検討していただきたいと思います。

私からは2点お伺いしたいです。まず1点目ですが、評価シート右側中段「IV 事務事業評価」の上から2つ目「学校支援地域本部費」における「事業実施にあたり工夫した点」の最後に「・・・学校と地域の連携を築くための取組を行った。」とありますが、具体的に学校と地域の連携のために行った取組を教えてくださいたいです。

次に2点目ですが、活動指標①「ボランティア養成講座の開催回数」における目標値、実績値ともに1回となっていますが、この1回はこういった方を対象として行っているのか、また、こういった経緯で目標値を1回としたのか教えてくださいたいです。

(野田会長)

ありがとうございました。

今のご質問に対していかがでしょうか。

(吉野学校教育課長)

ご質問のありました「ボランティア養成講座」につきましては、学校支援地域本部にボランティアコーディネーターという方が22名在籍されております。この22名のスキルアップを目的として、愛知県から講師を呼んで実施しているものでございます。従いまして、広くボランティアの方を募集し講座を開催しているものではござい

ません。続いて、学校と地域の連携につきましては、放課後子ども教室の運営や図書の読み聞かせなどをやっていたいただいているところでございます。

(野田会長)

ありがとうございました。

地域との連携については、放課後子ども教室の運営や図書の読み聞かせなどをやっていたいただいているということでしたので、学校支援地域本部としては、その点を工夫した点として実施したということですね。また、ボランティア養成講座の回数については当初から1回を想定していたということでもよろしいですね。ちなみに活動指標②「地域コーディネーター会議の開催回数」は目標2回に対し、実績は1回となっていますがこれはこういった要因でしょうか。新型コロナウイルスの影響もあるのでしょうか。

(吉野学校教育課長)

私が直接所管している担当課ではありませんので、申し訳ありませんがはっきりとした要因がわかりません。

(野田会長)

去年は、様々な要因で会議や研修などの開催回数が減っていると聞きました。いずれにせよ2回の開催を予定していたものが1回になったということですね。

西川委員いかがでしょうか。

(西川委員)

ありがとうございました。ここの部分が気になった理由を申しますと、私自身が学校図書ボランティアに6年間在籍しておりますが、このような講座の存在を知りませんでした。先ほどの説明にありましたボランティアコーディネーターの専門講座であると知って納得しました。また、地域コーディネーター会議の回数が2回から1回になっていましたが、実際にボランティア活動をする中で、皆さんすごく忙しくされている方が多いです。なので、昨年1回の会議で問題ないのであれば、今後も1回の開催にシフトチェンジしてもらえるのであればありがたいと思います。あとは、先ほどの説明で「放課後子ども教室の運営や図書の読み聞かせを行った」と言われましたが、私が知っている放課後児童クラブでは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、1年以上読み聞かせを行っていません。読み聞かせを行ったことが工夫した点であるという記載ではなく、別のことを記載した方が良いのではないのでしょうか。

(野田会長)

ありがとうございました。

何か事務局から説明などはありますでしょうか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

後藤でございます。今年度にはなってしまうのですが、ボランティア養成講座の開催について、オンライン会議で実施することを承知しております。ただ、地域コーディネーター会議の開催については、しっかり把握しておりませんので、調べておきます。

(野田会長)

回数については、これ以上わからないと思いますので、西川委員からご指摘のありました、地域コーディネーター会議の開催回数については一度ご検討いただけたらと思います。

他に何かご意見はありますでしょうか。

齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

中京大学の齊藤でございます。

私からは質問とコメントで4点ほどお話をさせていただきたいと思います。

まず1点目ですが、先ほどのお話にもありました「学校支援地域本部費」について、そもそもこの事業の目的として「地域コーディネーターを配置する」若しくは「ボランティアを養成する」といったものであれば、このままの活動指標でいいと思いますが、「22名のコーディネーターと地域が連携し、地域活動を促進する」ことを目的としているのであれば、「実際にどういった活動で地域と連携したか」といった活動指標でもいいのではないかと思います。

2点目ですが、評価シート右側中段「IV 事務事業評価」の上から3つ目「外国語教育充実費」における「事業実施にあたり工夫した点」の「・・・講師と共にミーティングを重ね・・・」「・・・連携を図り・・・」について、講師と現場である学校がミーティングをしたのか、それとも講師と担当課である学校教育課がミーティングをしたのかよくわかりません。もう少し言葉を追加してもらえると分かりやすくなると思います。

3点目ですが、左側下段「II 達成度指標の状況」における表中の上から2つ目「学校生活を楽しいと感じる児童・生徒の割合」について、児童・生徒といたしますと小学校1年生から中学校3年生まで幅広い年齢に分かれます。ここで記載の数値はおそらく全体分が記載してあるかと思いますが、もう少し細かく把握しているのであれば、学年によっての違いがわかる記載であると、清須市の今後の学校教育施策の良い参考となるのではないのでしょうか。

4点目ですが、その下の「後期計画期間の達成状況の分析」の上段■「・・・学校休業を経た後の児童生徒の学校生活の状況から、集団での学びや、友人たちとの日常生活の大切さについて、改めて意識することにつながったことが伺えた。」について、もう少し詳しく状況について記載があると良いと思いました。

(野田会長)

ありがとうございました。

1点目については、すぐにお答えできないかもしれませんが、指標について今後の検討になるかと思います。2点目については、表現の仕方についてのご指摘ですのでお答えいただけるかと思います。3点目については、表はこのままでいいかもしれませんが、集計値として学年ごとの集計はすぐにお答えできるようにしておいた方がいいと思います。4点目についても、表現の仕方についてのご指摘ですのでお答えいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(吉野学校教育課長)

2点目の講師につきましては、日本人も外国人もおり、それぞれ学校内でミーティングを行っております。4点目につきましては、学校が休業となったことにより、子ども達が不安になった、あるいは不登校であった子が学校に行きたいと感じるようになったなどの意見があったと聞いております。

(野田会長)

ありがとうございました。

2点目については、講師と教員で行う学校でのミーティングということであり、4点目については、様々な意見があったということですね。双方とも記載できる範囲で構いませんので、少し言葉を加えていただきたいと思います。

他に何かご意見はありますでしょうか。

上田委員、お願いします。

(上田委員)

評価シート右側中段「IV 事務事業評価」の1番上「学校教育振興補助金」における活動指標①「中学校の部活動数」について、最近では部活動の活動頻度が非常に少なくなっているのが現状で、小さい頃からクラブチームに所属していた子が、中学校の部活動を頑張るためにクラブチームを辞めて入部したものの、実際の活動頻度が週に1回程度だったとの話も聞きました。今後の動向などお聞かせいただけたらと思います。

(野田会長)

ありがとうございました。

今のご質問は評価シートそのものではなく、事業内容の話ですかね。

この場でお答えできるかどうかわかりませんが、どうでしょうか。

(吉野学校教育課長)

お答えになっているかどうかわかりませんが、現在学校では教員の働き方改革ということがクローズアップされておりました。スポーツ庁、文化庁、文部科学省の3省庁から、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革ということで、令和2年9月に通知が出されております。内容としましては「休日に教員が部活動の指導に携わるのではなく、令和5年度以降は段階的に地域へ移行していく」というものになります。ここでいう地域とは、地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブ、芸術文化団体を指しますが、現在は教員等が中心となって実施されております地方大会やコンクールなどにつきましても、段階的に整理していく方針が打ち出されております。

そのような中、部活動についてもガイドラインを設けて、平日・週末ともに1日以上は休養日、さらには、平日は2時間、休日は3時間程度の活動とするなど、部活動を行うのが難しくなっているのが現状であります。

(野田会長)

ありがとうございます。

昔と違って、教員側の背景があるということがわかりました。

時間も限られておりますので、あとお1人ぐらいどうでしょうか。

角委員、お願いします。

(角委員)

この施策の内容というより、先ほど事務局から説明がありました行政評価の枠組みについてもう一度教えていただきたいと思います。評価の客観性やよし悪しについて議論してくださいとの事でしたが、このシートにある個々の関係性についてもう一度確認させてください。まず、評価シートの左上に「政策」がありますがこれが大きいテーマであると理解しています。次に政策を達成するための取組が施策であるのもわかりますが、その下にある「○施策の展開」と「○令和3年度事務事業評価実施事業(令和2年度対象)」の関係性がよくわかりませんので、教えていただきたいです。

次に、「Ⅱ 達成度指標」と「Ⅳ 事務事業評価」について、資料2の説明では、施策評価は事務事業評価を基本にして行うことが書いてありますが、施策の展開の評価はしなくていいのかという疑問がでてきます。その点も整理した上で関係性を教えていただきたいです。

最後に、事務事業評価を行った上で施策評価を行うとした一方で、事務事業評価が良くても達成度指標が良くなければ事務事業評価を見直すといった点がよくわからないので、その点も教えていただきたいと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。

それでは私の方からご説明いたします。最初のご質問ですが、施策203のシートで言いますと、角委員ご指摘のとおり、1番上に「子育てのしやすいまちをつくる」という大きな政策があり、その中でも「学校教育の充実」についての施策となります。この施策の目指す姿については、左上「○施策の目指す姿」に記載してあり、その実現に向けて「○施策の展開」に記載のある内容を展開していきます。ここに記載のある内容は、具体的に1つの事業とリンクしている場合と複数事業とリンクしている場合があります。その下の「○令和3年度事務事業評価実施事業（令和2年度対象）」では、施策の目指す姿の実現に向けて、展開する内容に関連した全ての事務事業のうち、最も関係している4つの予算事業について記載がしてあります。

2つ目のご質問ですが、施策の評価をするためには、関連する多くの事務事業の評価をする方がいいのかもしれませんが、全ての事務事業を評価することは難しいので、「○令和3年度事務事業評価実施事業（令和2年度対象）」に記載された、最も関係している4つの予算事業について事務事業評価を行うこととしております。

では、施策が達成されたかどうかはどこで見ると言いますと、これは事務事業評価の結果ではなく、あくまで「Ⅱ 達成度指標の状況」の表に記載された達成度指標に対する、満足度調査結果やアンケート調査などの結果の実績値が、目標値を上回るかどうかで判断します。この評価シートの考え方としましては、先ほどお話しした事務事業評価の結果が、達成度指標の実績値と大きく関係していると想定をしております。ただし、事務事業評価の結果がどのようになれば達成度指標の実績がどうなるといったことは、あくまで関係があると想定しているだけなので断言できません。

達成度指標の実績値につきましても、毎年調査を実施することはなかなか難しいと思いますので、空欄の部分につきましては、直近の実績値が現在の数値であると推定して評価を実施しております。

そのような趣旨で、この評価シートは作成されておりますがいかがでしょうか。

（角委員）

よくわかりました。その点を踏まえて1点教えてください。

達成度指標が目標値を上回らなければ、ダメなのかということだと思っておりますが、そもそも達成度指標を見ますと「楽しいと感じる児童・生徒の割合」とありますが、子どもが楽しいと思うことと、学校教育が充実していることは、必ずしもイコールである必要はないと感じます。

（野田会長）

ありがとうございました。

非常に本質的で重要な意見でしたが、これは長期的に考えていくべき内容だと思います。今後の課題としてください。

そうしましたら、次の施策に移ります。施策302の評価内容について、事務局か

ら説明をお願いします。

(炭竈企画政策係長)

引き続き私からご説明させていただきます。・・・

資料3「令和3年度行政評価結果（令和2年度対象）外部評価対象分」のうち「施策302 地域福祉の充実」について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。皆様いかがでしょうか。

山田委員、お願いします。

(山田委員)

民生委員・児童委員の制度については、100年以上続いているとのことであり、清須市のホームページでも「地域福祉の担い手として市民の立場にたって相談に応じ、福祉制度や子育て支援サービスを受けられるように行政や関係機関へつなぐパイプ役となります」と記載があります。そのような中で、評価シートの左側中段「I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況」の下段「○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）」の上段■「・・・相談件数は、ここ数年減少傾向にあり、その要因のひとつとして認知度が低いことも考えられることから・・・」とありますが、本当にそうでしょうか。昔は多くの方が民生委員に相談をするのが当たり前でしたが、現在は社会福祉協議会にも包括支援センターが設置されているなど、相談窓口も多くあるかと思えます。その点はどのように判断しているのでしょうか。

関連する案件として、右側中段「IV 事務事業評価」の1番下「社会福祉協議会費」において、社会福祉協議会へ委託している事業の進捗状況についても、評価の中に記載するべきではないでしょうか。

次に、同じく「IV 事務事業評価」の1番上「民生児童委員活動支援費」における「事業の有効性の評価」の「・・・その活動や資質向上のための研修に対して支援を行う・・・」とありますが、これはどういうことでしょうか。

最後に、右側下段「V 施策の評価と今後の方向性」の上段■「・・・新たな担い手の確保が困難となっている。・・・」とありますが、このことを踏まえどのようにしていくのか記載がされていないので、その点を教えていただきたいと思えます。

(野田会長)

ありがとうございました。

まずは、相談件数が減少している理由について、単純に減っている訳ではなく分散されているだけではないかのご指摘でしたが、これはもう少し分析して記載方法を検証した方がいいとのアドバイスであったと思えます。関連する内容として、社会福

祉協議会へ委託している事業の進捗状況についても記載した方がいいのではないかとのご指摘でした。次は「民生児童委員活動支援費」における「事業の有効性の評価」の「・・・その活動や資質向上のための研修に対して支援を行う・・・」の部分について、どのような研修支援を行ったのかという質問でございました。最後は、新たな担い手の確保が困難となっていることに対する対策についてのご質問でしたが、いかがでしょうか。

(鈴木社会福祉課長)

社会福祉課の鈴木でございます。よろしくお願いいたします。

委員ご指摘のとおり、民生委員への相談件数は減少しておりますが、相談される方や必要な方が減少しているとの認識はしておりません。相談件数の減少は相談窓口が分散化されたことが要因だと思っております。若い世代につきましては、インターネット等を活用してご自分で情報収集される方も多く、相談する段階まで至らないこともあると思います。また、昨年度のコロナ禍において皆様が外出を控えたことも相談件数の減少要因の1つではないかと考えております。なお、社会福祉協議会への委託事業につきましては、社会福祉協議会費とは別に、地域包括支援センター業務を高齢福祉課から委託をしております。委託業務の進捗状況の記載につきましては、今後検討してまいりたいと思います。

次に、民生委員の資質向上のための研修支援につきましては、AEDを使用した救命救急講習の実施や各民生委員の部会などに高齢者担当、子育て支援担当の専務職員を派遣し、スキルアップを図る研修を実施しております。

最後に、新たな担い手の確保につきましては、保育園や幼稚園へ啓発活動に出向き、次世代の担い手となる若い世代への啓発活動を行っております。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございました。

山田委員いかがでしょうか。

(山田委員)

民生委員・児童委員の仕事は非常に幅が広く、地域によってニーズが異なると思います。清須市としてのニーズはどこにあるのか。仕事内容の中には地域自治コミュニティでの役割もあります。たくさんある仕事内容をいくつか絞り込むことによって、新たな担い手の確保にも繋がるのではないかと思います。

(野田会長)

ありがとうございました。

今のご意見を踏まえ、ご検討いただけたらと思います。

他に何かご意見はありますでしょうか。
齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

齊藤でございます。

評価シート左側下段「Ⅱ 達成度指標の状況」における表中の「達成度指標」についてですが、活動を知っている市民の割合だけは不十分なのではないかと思えます。すぐに何かを追加することは難しいと思えますので、次の総合計画を策定する際には違った指標を加えるという検討をしていただきたいと思います。また、先ほど山田委員からの発言にもありましたとおり、新たな担い手の確保をどうするのかという問題の一方で、民生委員の活動内容を充実させたいという考えもあるようですが、大切なのは今後の民生委員や人権擁護委員の方向性をどのように考えていくのか、厚生労働省や法務省の方針もあるとは思いますが、清須市ができる範囲で何が重要であるのかを検討することではないでしょうか。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございました。

今すぐに何かできることではないと思えますが、今後しっかりと検討していただきたいと思えます。

他に何かご意見はありますでしょうか。
綱島委員、お願いします。

(綱島委員)

綱島でございます。よろしくお願ひいたします。

山田委員、齊藤委員からもお話がありましたが、民生委員・児童委員に関する問題はなかなか整理が難しいところがあると思えます。実際に行政側からの視点だけではなく、民生委員・児童委員が把握している情報や懸念事項を分析や整理ができていのでしょうか。清須市は高齢化の進展よりも、出生率も高く若い世代の増加のイメージがありますので、求められるニーズも少し前の時代とは異なっていると感じます。もし分析や整理ができていないのであれば、民生委員・児童委員に対してアンケート等の意見聴取を実施してはどうでしょうか。

(鈴木社会福祉課長)

民生委員・児童委員への意見聴取につきましては、毎月1回「民生委員協議会」を各地区で開催し、地域で起こった問題や相談案件などの情報共有を行っております。以上でございます。

(綱島委員)

民生委員・児童委員の情報共有はされているが、委員個人の意見や懸念事項などは把握する場がないということでしょうか。

(鈴木社会福祉課長)

先ほど申しました「民生委員協議会」におきまして、情報共有だけではなく委員の意見や懸念事項があれば聴取しております。

(野田会長)

ありがとうございました。

実情は「民生委員協議会」において把握されることはわかりましたが、綱島委員の発言の趣旨としましては、今後の民生委員・児童委員の活動について皆さんがどういう考えを持っているのかを把握することが大切ではないかとのことだと思いますがいかがでしょうか。

(綱島委員)

実際に委員をやっている人が、実情を理解していると思いますので、その考え方を引き出していけると、大切な部分が整理されてくるのではないかと思います。

(野田会長)

ありがとうございました。

そうしましたら、次の施策に移ります。時間も経過しておりますので、施策702と施策704の評価内容について、事務局から説明をお願いします。

(炭竈企画政策係長)

引き続き、私からご説明させていただきます。・・・

資料3「令和3年度行政評価結果（令和2年度対象）外部評価対象分」のうち

「施策702 広報・広聴活動の充実」

「施策704 市民ニーズに応える行政運営の推進」について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。皆様いかがでしょうか。

高山委員、お願いします。

(高山委員)

高山でございます。私からは2点お伺いします。

1点目ですが、施策702の評価シートで、右側中段「IV 事務事業評価」の1番上「広報紙発行費」における「決算額」について、令和元年度に比べて令和2年度は決

算額が下がっていますが、活動指標①「広報紙の発行部数」の欄を見ますと、令和2年度の目標値よりも実績値が増加しております。決算額が下がっているのに発行部数が増加している要因は、広報紙のページ数が減ったということで良いのでしょうか。

次に2点目ですが、施策704の評価シートで、右側中段「IV 事務事業評価」の3番目「窓口業務民営化費」における活動指標①「民間委託した窓口業務における受付件数」とありますが、民間委託を行っているのは市民課窓口業務だけだと認識しております。一方で、同じく事務事業評価の1番上「個人番号カード交付費」における「事業実施にあたり工夫した点」を見てみると「・・・コンビニ交付サービスなどのPRを行った・・・」とあります。コンビニ交付の件数が増えれば、窓口業務の受付件数が減ると思いますが、そう考えるとそれぞれの事業が別の方向に向かって進んでいるような気がするのですがいかがでしょうか。

(野田会長)

ありがとうございました。

1つ目のご質問はどうでしょうか。

(石黒企画部次長兼人事秘書課長)

人事秘書課の石黒と申します。よろしく申し上げます。

広報紙の印刷業務及び配布委託業務については、毎年度入札を実施して業者を選定しておりますので、1ページの印刷単価や1件の配布単価が異なってくるのが要因ではないかと考えます。

(野田会長)

ありがとうございます。

年度ごとに、発注する業者の見積金額が異なってくると思いますので、年度ごとに比例はしないのご回答であったと思います。2つ目のご質問ですが、窓口業務民営化費で掲げる受付件数の目標と、個人番号カード交付費で掲げる交付者数の目標が、交付者数が増えると窓口受付件数が減ってしまう現象が起きてしまい、目標間での整合が取れないのではないかとのことでしたが、こちらはいかがでしょうか。

(伊藤市民課長)

市民課の伊藤でございます。よろしくお願ひいたします。

窓口委託業務につきましては、証明書の発行業務のみとしており、住民票や戸籍の証明書、印鑑証明書などの発行受付件数を活動指標の実績値として記載しております。委員ご指摘のとおり、住民票や戸籍関係証明書の一部、印鑑証明書などの交付をコンビニでも行っており、こちらも順調に利用者が増加してきております。ただ、窓口でしか取り扱いできない案件もございますので、それらを含めて発行受付件数として記

載しております。

(野田会長)

必ずしも対比しないということですね。また、個人番号カードを交付してもコンビニで利用しない可能性もあります。個人番号カードの発行は様々なサービスと関連づけるためには、どうしても普及させたいという思いがあり、活動指標としているということだと思います。

(高山委員)

ありがとうございました。

民間委託した窓口業務における受付件数を活動指標としていることに少し違和感を覚えます。評価シートの右側1番下「V 施策の評価と今後の方向性」の4番目の■「・・・令和3年度は、窓口利用者に対してアンケート調査を実施し・・・」とありますが、その結果などを参考に活動指標とした方がいいのではないのでしょうか。

(野田会長)

そうですね。この事業は需用に対してどの程度対応できたかがまだわからないという点から、とりあえず受付件数で活動指標を設定している感じがあります。この活動指標で達成したかどうか判断が難しいと思いますので、今後ご検討いただけたらと思います。

他にどうでしょうか。

西川委員、お願いします。

(西川委員)

同じく「個人番号カード交付費」のところから、「事業実施にあたり工夫した点」の「・・・土曜窓口実施日にも行い・・・」の部分から、子育て世代の親からすると土曜日窓口の実施は非常に助かります。有給休暇は、子どもが発病した時や学校参観日にとっておきたい気持ちがありますので、これからも民間業者の力を借りて充実していただきたいと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。

ご意見ということで参考にさせていただきたいと思います。

他にどうでしょうか。

綱島委員、お願いします。

(綱島委員)

これは意見としてお願いしたいのですが、施策704の評価シートはどうしても「窓口業務民営化費」に注目してしまいます。本来、窓口業務民営化のねらいとは、職員でやっていた発行業務などを専門業者に委託することで、コストの削減やサービスの維持・向上が可能となるからだと思います。そういった意味でも活動指標を受付件数にしてしまうのはどうかと思います。また、気になる費用対効果については、具体的な数字ではなく組織の機構改革を実施し、危機管理部署や財産管理部署の新設など適正な人員配置を行ったとのことでした。そのような点をぜひ評価シートにも記載をしていただきたいと思います。

(野田会長)

ありがとうございました。

特に後半のお話は、どこに記載できるかわかりませんが、どこかに文章で記載した方がいいと思います。

他にどうでしょうか。

角委員、お願いします。

(角委員)

枠組みについて少し教えていただきたいのですが、それぞれの評価シートの左側下段「Ⅱ 達成度指標の状況」における表の「実績値」の欄が「-」となっている部分は、計画的に達成度指標を把握できていないということでしょうか。先ほど評価シートの説明をしてもらった際、達成度の状況によって事務事業内容も変えていくという説明だったと思いますが、直近2年の実績が把握できていないのに、どのように判断するのでしょうか。あくまで推測ですが、市民満足度調査のような市民を対象にした調査を毎年実施することが難しく、2年に1回程度しかできないということなのでしょうか。

(炭竈企画政策係長)

事務局の炭竈です。よろしくお願ひいたします。

このあと資料4をご説明する際に少しお話をさせていただく予定であります。まさしく委員ご指摘のとおり、市民満足度調査につきましては、毎年実施しているものではございません。2年から3年に1回の実施をしているところでございます。達成度につきましては、資料2でご説明させていただきましたとおり、直近の実績値が現在の数値であると推定して自己評価を実施しております。今後の詳細につきましては、資料4のご説明の際にお話させていただきたいと思ひます。

(野田会長)

ありがとうございます。

角委員の推測どおり、予算などの都合もあるため、調査できるタイミングで実施しているということでございます。なお、調査結果から算出する指標以外の指標のうち、毎年把握することができるものについては、記載がされております。いずれにせよ直近の値を類推して判断しているということです。

他にどうでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日皆様にいただいたご意見に基づいて、行政評価シートの一部再考をしていただくようお願いします。

5 議題(2) 令和3年度行政改革推進委員会のスケジュールについて

(野田会長)

最後に、議題(2)「令和3年度行政改革推進委員会のスケジュールについて」事務局から説明をお願いします。

(炭竈企画政策係長)

先ほど少しお話をさせていただきましたが、引き続き私から「資料4」のご説明をさせていただきます。

まず、7月の欄に記載があります「第1回委員会」は、本日皆様に行っていただきました外部評価について記載をしております。

次に、12月の欄の「第2回委員会」は、昨年度が書面会議で開催しておりましたので、今年度につきましても書面会議での開催を予定しておりましたが、本日の審議を踏まえた事務事業の見直し・改善に加え、今年度10月～11月頃に実施を予定しております「市民満足度調査」の速報値についてご報告したいと考えております。

ただ、その時期に新型コロナウイルス等の状況がどうなっているかまだわかりませんので、本日のようにお集まりいただくか書面会議にするか事務局で検討し、また後日連絡させていただきます。

最後に、3月の欄の「第3回委員会」は、行政改革推進プランに基づく行財政改革の取組結果及び令和4年度のスケジュールについてご報告したいと考えておりますのでよろしくお願いいいたします。以上で資料4の説明を終わります。

(野田会長)

ただいまの説明について、ご意見等どうでしょうか。

・・・「特になし」の声・・・

よろしいですかね。それでは、皆様長時間にわたりましてご審議ありがとうございました。これから市の方で、行政評価の結果や本日皆様からいただいたご意見を踏まえ、事務事業の見直し・改善等を進めていただきたいと思います。では以後の進行は事務局へとお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

6 閉会

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

長時間に渡り、お疲れ様でございました。

本日皆様からいただいたご意見につきましては、内部で実施に向けた検討をさせていただきます。第2回の委員会において、検討内容についてお示しし、再度ご意見をいただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

先ほどのスケジュールにもございましたとおり、第2回の委員会につきましては、12月頃を予定しておりますが、書面会議とするかお集まりいただくか、改めてお知らせをさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

以上で、第1回委員会を閉会いたします。

本日はお忙しいところご出席いただきありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

問い合わせ先	企画部 企画政策課 電話 052-400-2911 (内線3211)
--------	---------------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員 網島 裕介

署名委員 角 耕太郎